

文化

室戸台風 校舎全壊でも犠牲者ゼロ



「昭和九年九月二十一日 風災記念碑」

そう刻まれた石碑が、京都市伏見区の府立桃山高校の校庭にある。高さ約2・7メートルの石碑の背面には、559文字の漢字とカタカナがびっしりと刻み込まれている。

碑文は、当時の桃山中学校の校長が記したとされる。「我が校の永久に忘れてはならない日である」という書き出しから始まり、台風の強風で校舎の18教室が全壊したが、犠牲者は一人もいなかった、と伝える。一人の死傷者も出さなかったのは普段の訓練のためものだったと、視察に訪れた文部大臣が称賛したことも付け加えられている。

1934年9月21日。超大型の室戸台風が近畿地方を襲った。死者行方不明者が3千人を超え、「昭和三天台風」の一つに数えられる。

現在、桃山高校で地学を担当する村山保教諭(61)は石碑を見て、南海トラフの巨大地震に対する備えだけではなく、台風に備える必要性も感じていた。話を聞いた書道の足立厚子教諭(60)が昨年10月から、2年生の授業の一環で碑文の内容についての調査に乗り出した。

室戸台風による京都市内の学校の被害を調べていた佛教大学の植村善博名誉教授に相談した。植村さんから、碑文の記録をとって正しく読み取る必要があると指導された。小須田玲奈さん(17)や山本千聖さん(18)ら11人の生徒たちが拓本を探り、難しい漢字や

「避難遅かったら、わが子は…」碑に刻んだ声

言葉は調べ、現代語に訳した。碑文には、被災の翌年1月に生徒の父母たちが寄付金を集めて石碑を建てた経緯も記されていた。父母たちはこう言ったそうだ。「避難が少しでも遅かったら、わが子たちはどうなっていたかわからない。わが校の教育上、もっとも貴重な教訓である。碑を建てて後世に伝えてほしい」

小須田さんたちは、碑文を読み進めるうちに、こう考えられるようになった。「碑文からは、当時の人の声が身近に聞こえる」「自分たちが後世に伝えていく使命も感じた」

被災後の12月に発行された同窓会誌や、翌年3月に発行された旧文部省がまとめた室戸台風の被害記録には、被災当時の教員や生徒らの克明な記録があった。

午前8時10分、授業開始。そのころ、校舎外にいた校長は強風に吹き飛ばされて転倒し、校長室にたどり着けず別室にとどまる。

8時13分、運動場寄りの最南端の校舎にある第2教館に強風が直撃。2階教室の窓ガラスが割れ、壁が落ちた。校長は第2教館が危険と判断



碑文の内容を調べた山本千聖さん(右)と小須田玲奈さん(中央)、足立厚子教諭(京都府伏見区の府立桃山高校)

経験伝える石碑 教育的価値高い

植村善博・佛教大学名誉教授(自然地理学)

京都市とその周辺で、室戸台風をきっかけに建てられた石碑を調べました。その結果、当時の府立中学1校と尋常高等小学校6校の計7校について計10基の石碑を確認できました。犠牲者を出さなかったことを記した桃山中学を除き、犠牲者になった児童と教員を慰霊するため、あるいは災害を記憶するためにつくられた石碑です。

現在の京都市立西陣中央小学校(旧西陣尋常小)と市立西院小学校(旧淳和高等尋常小)、八幡市立八幡小学校(旧八幡高等尋常小)の3校は、30人以上の児童と教員が犠牲になりました。この3校では今も、地域住民と一緒に石碑への献花や法事が営まれています。また、被災した9月21日を「風災記念日」に指定した学校もあります。

各校が災害の経験を伝える行事を続けている背景には、石碑が校内にあることが影響していると考えられます。災害を伝承し、防災について学ぶ上で、石碑の教育的価値は高いと考えています。

し、生徒を北側の第1教館と物理・化学室に避難させるように教員に命じた。火と電気を切るのも忘れなかった。強風が、避難場所となるはずの運動場から吹きつけていた。教員の一人は安全な避難候補地を探し始めた。現場の教員らは生徒たちが避難していた第1教館や物理・化学室なども危ないかと判断し、校外への避難を始めた。

8時27分、第2教館が轟音と土煙をあげて倒壊。危険を察知してから14分後だった。「5分遅れて避難したら、あるいは、命令に従わずに騒いでいたら校舎の下敷きになっていた」。当時の生徒たちはそう振り返った。

植村さんの調査によれば、京都市の犠牲者の7割にあたる170人が児童・生徒と教員だったが、8時すぎまでに校外への避難を決めた学校では犠牲者が出なかった。一方、避難指示が8時20分すぎまで遅れたり、避難指示を伝達できなかったりした学校では、移動中や退避中

◆ 今年は、台風や西日本豪雨などの自然災害が多発した年でもありました。「災害考古学」の第2部では、各地で防災意識を高めようとする試みや、4回にわたって紹介します。

◆ 「こころの水鏡」と「テーブルトーク」は、あす掲載します。

室戸台風(1934年)による被害

死者・行方不明者	3000人以上
全壊・一部損壊した家屋	約9万3000戸
浸水被害を受けた家屋	約40万1000戸
児童・生徒・職員の死亡者数	992人
児童・生徒	966人
職員	26人



(府県別) 大阪691人、京都173人、兵庫36人など

室戸台風で被災した京都府の主な学校

●全壊した学校数 36



両洋中 現京都両洋高



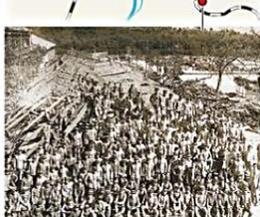
西陣小 現西陣中央小



淳和小 現西院小



大内第三小 現南大内小



桃山中 現桃山高(桃山同窓会提供)

お住まいの地域に眠る自然災害の歴史に関する石碑や古文書などの情報を教えてください。メール(do-kansai@asahi.com)か、ファクス(06・6201・0179)で。お名前とご連絡先(電話番号など)も明記して下さい。